

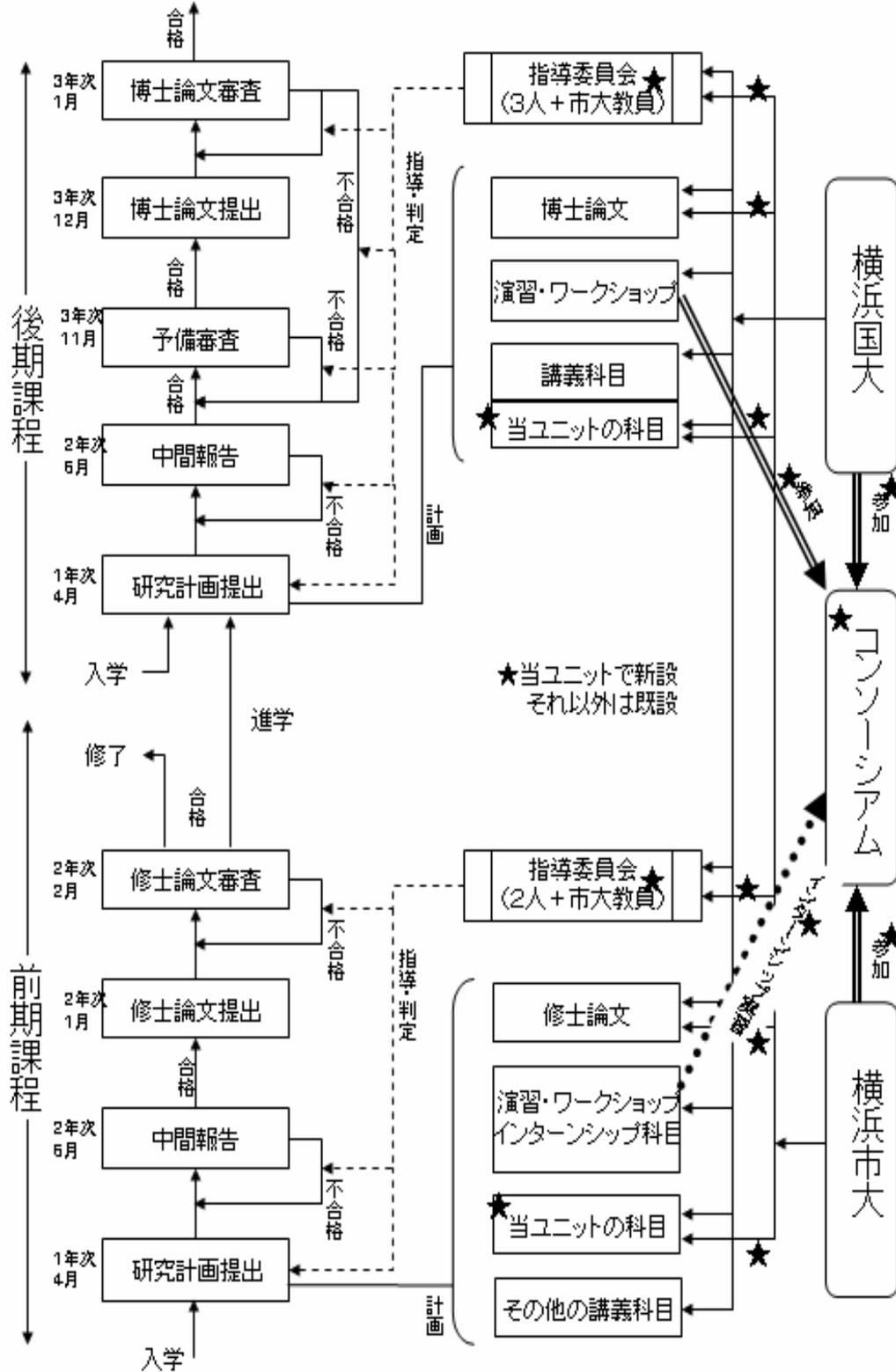
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	横浜国立大学	整理番号	b019
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	医学情報処理エキスパート育成拠点の形成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学、人間医工学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (メディア情報学・データベース、認知科学、生体生命情報学、医用システム、リハビリテーション科学・福祉工学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 環境情報学府・情報メディア環境学専攻[博士前期課程・博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 井上 誠一	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>横浜国立大学では、新制大学として発足以後、工学系において教員の研究・教育ポテンシャル、学生の意欲と能力を高いレベルで維持しており、これまで技術の最前線で活躍する多くの若手人材を輩出してきた。我が国のここ十数年来の産業の先端化、工学系人材ニーズの高度化を反映し、本学の教育研究も大学院重視へと移行し、平成13年4月に、それまでの工学部・工学研究科を中心に全学的な改組・拡充と大学院部局化を行って、工学研究院・学府、環境情報研究院・学府の二つの理工系の大学院を発足させた。また研究部と教育部を別立てとすることで、時代の要請にあった最先端の教育研究ニーズにすばやく対応できるよう努力してきた。それぞれの研究院・学府に各一件のCOE研究拠点形成プロジェクトが認められている。特に本学が最近重点的に取り組んでいることがらとして医工学分野との教育・研究連携がある。中でも本学と同一地域にあり、我が国でも有数の先進的医学研究教育臨床施設である、横浜市立大学大学院医学研究科および附属病院とは、長年にわたって教員グループによる共同研究・共同指導が行われてきたが、さらに積極的に将来の包括的な連携を視野に入れて、様々の取り組みが実施あるいは計画されている。本申請は本学の学長裁量経費や教育研究高度化経費により育成された事業であり、環境情報学府を主軸として提案するものである。本事業には、今後も大学として支援を行う予定である。</p>			

機 関 名	横浜国立大学	整理番号	b019
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>横浜国立大学には工学部とその上に立つ2つの大学院、<u>環境情報学府</u>(以下、本学府)と<u>工学府</u>があり、今まで国立大学中屈指の数の研究者・技術者の育成を行ってきた。特に、本事業と関連するものを示す。1) <u>横浜市大医学部</u>と横浜国大情報系教員による大学院生の共同指導。また、共同研究成果発表会として <u>MIPS研究会</u>を8年前より毎年1回開催。2) 医学情報学分野における科学研究費等による大型共同研究。基盤研究(A)1件、基盤研究(B)2件、JST産学連携イノベーション創出事業等を実施。3) 横浜国大・市大の医学情報学教育連携として交換講義を実施。4) 本学府の連携分野「<u>医用情報学</u>」の教授・助教授(市大医学部・附属病院に所属)による本学府生への専門分野の講義および修士研究指導。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>最近の医学・医療において、<u>遺伝子工学</u>、<u>分子設計・合成化学</u>、<u>医学画像解析学</u>、<u>自動診断システム</u>など工学の分野の理論・方式・技術を直接利用した研究開発がよく行われている。一方、本学が位置する京浜地区、特に横浜地区は医療機器・医薬品のメーカーが多く、また日本最大の放射線医学検診センターをかかえるなど、工学と医療の接点の分野での人材ニーズはきわめて大きい。横浜国立大学は上述の通り、今まで国立大学において屈指の量の技術者育成を行ってきた実績を有する。さらに本学府情報メディア環境学専攻(以下、本専攻)では、<u>医学画像診断</u>、<u>バイオメトリクス</u>など、医学と密接に連携した情報工学分野において多くの教員による顕著な研究成果が既に挙げられている。しかし、大学院教育の視点からは、医学部がないため、医学情報の最先端分野での教育プログラムが十分ではなく、結果的には最先端研究開発が行える人材育成という、地域・時代のニーズにほとんど応えられていない。本事業は本学のように医学部のない大学が、同地域の中の医学系大学の支援を得ながら、最先端医学情報分野で独り立ちできる研究開発者を育成し、実践的な知識・技術をもった人材を輩出するためのモデル事業である。具体的には本学府に医学情報分野に関わる教育を体系的・集中的に行う<u>医学情報教育ユニット</u>を設立し、<u>横浜市立大学大学院医学研究科</u>に協力を求めて医学基礎と情報応用の授業を行う。さらに地域連携型の実践的教育、特にマンツーマンの実習の場として、<u>京浜地区最先端医学情報コンソーシアム</u>を設立し、本学府生がインターンシップ参加できるようにする。博士課程前期においては、同ユニットを副専攻として位置づけ、横浜市大の教員を指導教員グループに迎える。後期においては、横浜市大教員が客員指導教員として、指導委員会に参加し共同指導体制を敷く。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	横浜国立大学	整理番号	b019
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 965 633 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1014 1428 1332" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 1014 1428 1238">・医療及び情報の融合分野でそれぞれの大学の資源を活かし、横浜市立大学という経営母体の異なる大学と連携を図り、地域の産業の特性を踏まえた医学情報処理に焦点を絞った教育プログラムが提案されている点は、大いに評価できる。また、地域連携型の実践教育の場として、「京阪地区最先端医学情報コンソーシアム」を設立し、「医学情報教育ユニット」を形成してユニークな教育を行おうとする試みは、期待できる。 <li data-bbox="172 1254 1428 1332">・国際的な視野に立った研究者養成という視点から、英語教育の充実などについて、工夫が望まれる。 			